

大学人のためのリフレクション事始

一人材育成研究・実践のフロンティアから考えるー

■講師



中原 淳（東京大学 大学総合教育研究センター 准教授）
東京大学教育学部卒業、大阪大学大学院人間科学研究科、メディア教育開発センター（現・放送大学）、マサチューセッツ工科大学客員研究員等を経て、2006 年より現職。東京大学大学院学際情報学府准教授を兼務。大阪大学博士（人間科学）。「大人の学びを科学する」をテーマに、企業・組織における人々の学習・成長・コミュニケーション、リーダーシップについて研究。専門は経営学習論。著書に『職場学習論』『経営学習論』（東京大学出版会）などがある。



俣野 秀典（高知大学 総合教育センター 講師）
北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科修了。地域科学研究会・高等教育情報センター研究員を経て、2009 年より現職。教育評価や教育方法を中心に、FD を含めた“Educational Development”に取り組む。教育プログラム開発部会長および課題探求実践セミナー分科会長として、課題探求型授業の開発・支援に携わる。専門は高等教育開発、ナレッジ・マネジメント（知識経営）。著書に『大学教員のためのルーブリック評価入門』（共訳、玉川大学出版部）がある。

■プログラム概要

近年、ブームと言ってよい程“リフレクション（振り返り）”が高等教育や人材開発界で注目されています。しかしながら、その意味や方法を理解し、実践している（組織として、教職員として、学生として）ケースはまだまだ少ないのが現状です。

そこで本シンポジウムでは、大学人（教職員・学生）の成長を確かなものにするために（SPOD フォーラム 2014 サブテーマ）、「リフレクションとは何か？」「リフレクションをどのように行えばよいのか？」に正面から向き合います。

シンポジウムの前半は、人材育成研究および実践に関する最前線の事例を多数交えながら、振り返ることの意義・目的・効果・方法などを共有し、参加者の日々の実践における振り返りのヒントに気づく時間に充てられます。後半では、前半の内容を押さえつつ、現場（FD および SD の文脈）においてリフレクションを実践していくためのシナリオ（高等教育機関における最前線）を参加者全員の対話の中で創っていきます。

※リフレクション（reflection）は「省察」「反省」「振り返り」などと訳され、起こった事象や自身の行為を振り返ることを指します。

※このセッションは参加型で行います。セッションの最中、お近くの方とのディスカッションやエクササイズ等を行います。

■主な受講対象

学びにおける“リフレクション（振り返り）”とは何かを知りたい教職員
組織の開発や自身の成長に関心のある教職員
自身の授業で振り返りのプロセスを設けている／設けたい教員
職場での業務に振り返りの手法を用いている／用いたい職員

■本プログラムの到達目標

1. リフレクション（振り返り）の目的を説明することができる。
2. リフレクションと参加者自らの体験を関係づけることができる。
3. 自らの組織／活動におけるリフレクション実施のヒントを持ち帰ることができる。

■日時・会場・受講定員

日 時：平成26年8月29日（金）13:00～15:30
会 場：高知大学 朝倉キャンパス 高知大学生生活協同組合 食堂スペース
定 員：200名